

○経済産業大臣表彰

<受賞者名>

アステラス製薬(株)、武田薬品工業(株)、武田テバファーマ(株)、武田テバ薬品(株)、三菱倉庫(株)、旭運輸(株)

<功績概要>

- ・製薬メーカー4社、3PL 業者と運送業者により、北海道に共同の物流センターを設立し、災害発生時でも医療用医薬品を安定供給できる物流体系を構築
- ・各社の作業手順・温度管理等の標準化を実施し、物量の変動に応じた保管、荷役作業の効率化を実現
- ・特約店からの受注曜日の統一によるトラックの積載率上昇・台数削減や特約店側の作業効率化等を実現

<効果>

- ・共同物流センター運営により、輸送による CO2 排出量を 75t-CO2/年削減。また、倉庫の電力使用による CO2 排出量を 83t-CO2/年削減
- ・ターミナルとの倉庫一体化によりドライバー省力化
- ・荷役、薬剤管理等の共同化により庫内生産正が向上

○経済産業省商務・サービス審議官表彰

<受賞者名>

江崎グリコ(株)、全国通運(株)、日本貨物鉄道(株)

<功績概要>

- ・調達原料と製品を含めたバリューチェーンの見直しを行い、従来はそれぞれ単独で行っていた輸送について、関東～関西のルートで鉄道コンテナラウンドユースを実施

<効果>

- ・帰り荷が空だった輸送をなくし、鉄道モーダルシフトを行うことにより、CO2 排出量を 28t-CO2/年削減
- ・短距離での鉄道輸送利用、空荷輸送の削減によりドライバーの運転時間を削減
- ・女性ドライバーでも働きやすい環境(オートフロア、ジョルダー付きコンテナ利用、就業時間内に戻れるルート構築)を整備

○グリーン物流パートナーシップ会議特別賞

<受賞者名>

(株)ケミロジ、(株)京三運輸、プロメガ(株)、和研薬(株)、八洲薬品(株)、理科研(株)

<功績概要>

- ・試薬・理化学機器の販売業者が共同で出資し、共同輸配送を事業化する物流会社「株式会社ケミロジ」を設立
- ・これまで1日に複数のメーカーから別々に商品輸送していたが、ケミロジ共同輸配送を利用することにより輸送を集約し、CO2 排出量を削減

- ・商品配達時に用いる発泡スチロール箱や緩衝材を集荷時にメーカーに戻して再利用することや、発泡スチロール資材の減容機を購入し廃棄物を資源化

<効果>

- ・共同輸配送により、CO2 排出量を 105t-CO2/年削減
- ・発泡スチロールの廃棄コスト及び購入コストを削減

○グリーン物流パートナーシップ会議特別賞

<受賞者名>

乾汽船(株)、日本製紙(株)

<功績概要>

- ・商品の配送所宇検は日本製紙とエンド顧客との商流上の商談に包含されるが、物流現場目線でエンド顧客への配送条件に関する具体的提案は商慣習上行われていなかった。本事業では、荷主と物流事業者が協力し、エンド顧客の納品指定時間の解除等を実施することで、物量の平準化を図る「バラちらし」を実施

<効果>

- ・物量の平準化により車両の削減・配送回転率が向上し、CO2 排出量を 19t-CO2/年削減
- ・商慣習の改善(物流現場目線からのエンド顧客への提案)